

## 防音保護具が「聴覚保護具」に変わります！

日本聴力保護研究会（所在地：東京都文京区 会長：松村不二夫）は、2020年4月25日に制定されたJIS(JIS T 8161-1 第1部：遮音値の主観的測定方法/JIS T 8161-2 第2部：着用時の実効A特性重み付け音圧レベルの推定)を周知するとともに、騒音性難聴を防止する聴覚保護具の啓発・普及活動を行ってまいります。

## 制定のポイント

## 1. 防音保護具が「聴覚保護具」に変わります。

これまで使用されてきた防音保護具の名称が「聴覚保護具」に変更されます。

## 2. 旧規格の製品規格から、新規格は「方法規格」となります。

新規格は、国際規格（ISO 4869-1:2018、ISO 4869-2:2018）との整合性を主眼に制定されており、JIS T 8161-1で遮音値の測定方法を定め、JIS T 8161-2で聴覚保護具の着用時の実効A特性重み付け音圧レベル（正しく装着した時に聞こえる音の大きさ）の推定について記載しております。このJISの制定によって、使用者が正しく遮音性能を製品間で比較することができ、その結果、職場に適した聴覚保護具の選定が可能になります。

## 3. JIS表示方法が変わります。

日本聴力保護研究会は、遮音性能を製品間で比較しやすいように、移行期間を設け、性能表示方法を統一します。周波数毎の遮音値、SNR値、HML値の3種類を原則として表示します。

## ■遮音性能表示例

耳栓遮音性能（JIS T 8161-1：2020による遮音性能より）

| 周波数 (Hz)        | 125  | 250  | 500  | 1000 | 2000 | 4000 | 8000 |
|-----------------|------|------|------|------|------|------|------|
| 平均遮音値 (dB)      | 33.1 | 36.3 | 38.4 | 38.7 | 39.7 | 48.3 | 44.4 |
| 標準偏差 (dB)       | 5.0  | 7.4  | 6.2  | 5.6  | 5.3  | 4.5  | 4.4  |
| 想定保護値 APVf (dB) | 28.1 | 28.9 | 32.2 | 33.1 | 35.4 | 43.8 | 40.0 |

SNR = 37 dB

高域周波遮音値 H = 37 dB、中域周波遮音値 M = 34dB、低域周波遮音値 L = 31dB

※2023年7月までに変更予定となります。

## 騒音性難聴とは？

騒音性難聴とは、主として85dB以上の大きな音に長期間ばく露されることにより、内耳に障害が起こり、永久的な難聴を引き起こすことをいいます。

[お問い合わせ先]

日本聴力保護研究会 事務局 伊藤

URL : <http://japanhearing.jp>

TEL : 03-5804-3125 E-mail : [info@japanhearing.jp](mailto:info@japanhearing.jp)